

令和6年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	140

【評価】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 さくら小 学校

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
C: 肯定率の平均が60%未満

学校長 山本 智啓

※ 肯定率とは、評価(%)の評価4と評価3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評価(%)				評価平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	59	41	0	0	3.6	○松山の授業モデルを基にした「さくらの授業モデル」を作成し、授業改善を行ってきた。 ◆校内で行ってきた研究の成果や分析を保護者にも啓発周知する。
			学校関係者	83	26	57	15	3	3.1	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	○アナログとデジタルのよさを取り入れた学習活動を検討しながら学習活動を進めた。 ◆効果的なタブレットの活用については、今後も研修を重ねる。
			学校関係者	98	53	45	1	0	3.5	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	○調査結果を基にした指導を進めることで、少しずつ学力が身に付いてきている。 ◆「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の充実を図りたい。
			学校関係者	80	32	48	15	4	3.1	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	92	24	68	8	0	3.2	○各学年の取組の中で、地域の学習を進め、さくらのよさが感じられる活動を行った。 ◆教師自身も地域についての見識を深め、今後も心に響く指導ができるようにしたい。
			学校関係者	98	48	50	2	0	3.4	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	○道徳をはじめとする全ての学習、そして学校生活全般の中で差別を許さない意識を高めてきた。 ◆今後も、全教職員でいじめや差別問題について研修を深めたい。
			学校関係者	98	50	49	1	0	3.5	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	54	46	0	0	3.5	○「チームさくら」として、全教職員が共通理解を図ったうえでの指導を続けてきた。 ◆きまりの意味や意義を子どもに理解させた上での指導を進めていく。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	B	教職員	100	16	84	0	0	3.2	○外部講師を活用した授業を進めることで意識を高めてきた。 ◆将来の夢に向かって頑張ることや、最後まであきらめずに取り組むことについて指導を進める。
			学校関係者	72	23	50	23	5	2.9	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	68	32	0	0	3.7	○安全な登下校ができるように、学年指導や現地での指導を継続してきた。 ◆それぞれの地区の状況に合った具体的な指導を継続する。
			学校関係者	98	47	52	1	1	3.4	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	68	32	0	0	3.7	○保健だよりや学校保健委員会で基本的な生活の定着について家庭に啓発を続けてきた。 ◆今後も家庭への啓発をし、学校・家庭が同じ方向を向いた指導を続けたい。
			学校関係者	84	42	42	14	2	3.2	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	78	22	0	0	3.8	○保健委員会の活動を通して、換気や手洗いの呼び掛けを行い、子どもの意識を高めてきた。 ◆児童の管理能力を育てる指導を、今後も続ける。
			学校関係者	97	50	47	3	0	3.5	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	43	57	0	0	3.4	○教職員一人一人が特別支援教育の視点を意識した実践を進めてきている。 ◆今後も子どもに寄り添い、受容的な態度で接するよう心掛ける。
			学校関係者	96	50	46	3	1	3.4	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	68	32	0	0	3.7	○機会を設けて管理職、学年主任が情報共有をし、全教職員が共通意識を持って学校運営に携わった。 ◆今後も組織的な対応を行う。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	70	30	0	0	3.7	○研修主任がリーダーシップをとり、課題を明確にして授業改善に取り組んできた。 ◆今後も「誰にとっても分かりやすい授業」を目指して日々研さんに励みたい
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	○地域の方々や保護者に、学習や学校行事への協力を得て、連携して活動を進めてきた。 ◆子どもの様子を積極的に発信し、さらに協力・連携を図りたい。
			学校関係者	98	46	52	2	0	3.4	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○ホームページや学年だよりを通して子どもたちの様子を積極的に発信してきた。 ◆今後も、学校の考え方や教育活動の様子を積極的に発信していく。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	97	41	57	3	0	3.4	○視覚的にとらえられるような掲示を工夫し、子どもの意識を高めてきた。 ◆児童の姿容が捉えられる、系統的な掲示を意識する。
			学校関係者	99	59	40	0	0	3.6	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	97	32	65	3	0	3.3	○参集型の情報交換の場を設定し、児童理解を進めてきた。 ◆生活科や総合的な学習の時間を通してよりよい関係を築きたい。
			学校関係者	100	60	40	0	0	3.6	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	95	24	70	5	0	3.2	○生徒指導面、学習面等の情報交換を適切に行っている。 ◆関係園・校の参観などを計画し、情報交換を行う場を設ける。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	